

読売歌壇

小池 光選

食事終へ歯をみがかむと洗面所へ来れば右手が箸を持つてゐる 匠瑤市 椎名 昭雄

【評】年輪を加えると誰でもトンチンカンなことをやるようになるが、これはまた傑作だ。笑ってしまった。いっそのことその箸で歯磨きしたらどうか。

夕暮れの未だ明るき春の目を惜しみてカーテン引くをためらふ 上尾市 光谷三智子

【評】春宵一刻値千金。むかしから詩人のことをとりこにした時間帯だ。暗くなったが外はまだ明るい春の日は。もったいなくてカーテン引くのをためらう。きれいな歌。

歌えるよ小学校の校歌をね何の自慢にもならないけれど 柏市 浅田 千春

【評】中学校 高校の校歌は忘れたが小学校のそれはまだ知っている。ふと口ずさむときがある。何の自慢にもならないんだけどね。分かったぞ春が来たから桜咲くのじゃない桜咲いたから春 平塚市 村杉 晴次

チューリップの花を濡らして雨の降るこの静かさに向う戦禍を 小平市 栗原 良子

富山湾で孫が捕りきし道鳥賊触れば又も光り放ちぬ 新発田市 桐沢 茂

人生はままたらぬこと多いけどソースとんかつめっちゃおいしい 鳴門市 楠井 花乃

蠅たたき壊れるほどの力がまた私にあったチキフリ見つけ 佐世保市 鴨川 寛子

大阪の仲良しおぼちゃん三人は二泊三日をしゃべり続けし 所沢市 岡田 陽一

幾歳も葉ばかり水仙ふと見れば白き花あり母をここに居り 川崎市 前川木の夷

栗木 京子選

始まりは雫と言ふ磯敷の島染まりゆく桜の色に 葛城市 桐野美佳子

【評】国生女の神話でイザナギとイザナミの神が最初に作ったとされるオノコノ島。どの島にあたるかは諸説ある。ともあれ日本列島の各地に桜が咲き満ちる季節が来た。「始まりは雫」と桜色との取り合わせが美しい。

どこにでも銀座通りがあったころ洋裁店で眺えた春服 名古屋市 山守 美紀

【評】大都市から離れた街にも銀座通りがあった。それなりに賑わっていた。「洋裁店で眺めた」にも、なつかしい味わいがある。

『油断』読みし頃が去来すあらためてホルムズ海峡地図に見てゐる さいたま市 小平 英治

【評】堺屋太一の小説『油断』が出たのは一九七五年。イラン情勢が緊迫する昨今、読み直すと示唆を受ける。下句の思ひは深い。思い出をクリーム色の粒にした梅檀の美のつかぶ青空 長岡京市 みつきみすず

彼岸来て佐渡が橋で染まるころ朱鷺はひねもす卵を抱く 新発田市 本田 政嗣

雨の日のライブ会場だれよりも礼儀正しいラブラドルは 岩倉市 夫馬 和子

こんなにも性格、歩み違ふのに最期は同じ病の双生児 逗子市 鈴木喜久代

自転車の違反減らしに罰則の強化しかない現実悲し 盛岡市 舟山 治男

ひなあられ残りしままにひなのおさめわたし一人で淋しかったね 京都市 岩瀬 慶子

自覚症状ありながら読み進む内館牧子『老害の人』 福山市 石原 析子

俵 万智選

かんたんさ、寒暖差つて三拍子ききんでやってくるとんた春は 東京都 鳥さんの臉

【評】寒暖差の語感を、春の足音として捉えた発想が楽しい。大気も人も、ワルツを踊るように春になるイメージだ。初句の平仮名表記視覚、N音の多用聴覚、などの工夫が、ユニークな発想を表現面から支えている。

空中で回転しては春風のネジを緩める四月のイルカ 宇部市 常田 瑛子

【評】イルカの動きを「ネジを緩める」と感じたところに詩が生まれた。ネジが緩めば、温かな空気が入ってくるだろう。まさに、春窓という大きな目から降りてくる涙のような清掃業者 豊中市 葉村 直

【評】高層ビルなどの窓の清掃業務を、大きな視点で捉えた比喩が印象的。都市そのものが泣いているようにも思える涙だ。

水平を保って皿を子が運ぶ皆が視線で皿を支える 横浜市 友常 甘酢

海峽は封鎖が続くこんな日に僕は鳴門の渦を見ている 岩出市 小林 茂晴

ぼつかりと心に穴が空いたから 代わりに月でも浮かべておくか 東京都 松本 春乃

学食のカレーの値段の話なら誰もきかずけないクラス会 東京都 玉井 洋介

てりたまが始まった今日知りたきみがいなくても春は来るって 大阪市 小川 美帆

葬式はキリスト教では死んだ気がしないと主人に言われたと言う 青梅市 増田 正

天使には羽、悪魔には尾がありぬ人は悪魔の名残を隠す 熊本市 夏風かざる

黒瀬 珂瀾選

刃渡りのながき打ち明け事をされ刃渡りながく返してしまえり 大野城市 野分 のわ

【評】何か深刻なことを長々と打ち明けられたのでしょ。それに返して「こちらも真剣に応じた。白刃の上を歩くように慎重に、言葉を選びつつ会話する、緊迫した時間です。」

座布団の背は孫らの秘密基地うららかなれど干すをためらう 一宮市 岩田 恵理

【評】座布団を干したいんだけど、いつも孫たちが積み上げて遊ぶので、少し様子を見てみる。春の明るさで優しく満ちた一首です。

ずぶ濡れで雑踏警備やらされて大変でした風」のライブ 調布市 菊川 直樹

【評】アイドルのライブにはこうして現場を支える労働者の姿もある。文字通り風に曝されて働く人のおかげで夢の時間は成立する。はらはらと散りて流れる桜は千鳥ヶ淵に若鷺の影 紀の川市 北山まき子

長生きは淋しきことか義姉は白に幾たびも電話かける 東京都 山口多津子

海原を痛めるやうに春雷は光の槍となりて飛び込む 神戸市 西 和代

アマリスの球根殖えて持て余すAI曰く食べると毒と 枚方市 秋岡 実

「名探偵コナンがあるよ」孫からの電話がありて楽しみに待つ 薩摩川内市 末永 芳子

くくり置をカシヤカシヤ鳴らしおじさんは「鹿はシチューが美味い」と言った 笠間市 菅野 裕一

撮りためし写真の整理習ひつつPC教室にはば孫自慢 神戸市 伯野 洋子

◇投稿規定◇ はがき1枚に未発表の1作品。住所、氏名(ふりがな)、電話番号を明記。◇他の媒体、選者への二重投稿は厳禁です。選者が添削することもあります。〒103・8601、にほんばし蔵前郵便局留、読売歌壇(俳壇、〇〇先生(希望選者名)係または読売新聞オンラインから ◇毎週月曜日に掲載 右の影絵はたけのこ